



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 教育・広報部
2019年11月1日 No.145

「ワンマン運転の拡大について」団体交渉を開催

東日本ユニオンは10月24日、申第9号「ワンマン運転の拡大について」に関する申し入れの団体交渉に臨みました。

7月24日に経営側より「ワンマン運転の拡大について」提案を受け「技術開発の進展にあわせ新しい技術を導入し、線区・区間を限定せずに中長編成においてもワンマン運転を実施していく」としている中「安全の確保」「サービス品質の維持・向上」「経営側が検討中としている内容」「設備故障時、異常時の対応」「車両の治安維持、車内秩序の維持」「営業部門における業務量の変化」など多岐にわたり組合員と議論し、31項目の申し入れ事項を提出し団体交渉を行いました。

◎全体的なスケジュール感は

経営側⇒①将来に向けた考え方ということで「ワンマン運転の拡大」を提案した。

②全線区で導入を検討していくが、何年後を目指しているだとか、ワンマン運転のシェアは何%にしていくのかという目標は、現在のところ答えられる段階ではない。

組合⇒ジョブローテーションは社員の希望を聞くというが、ワンマン運転の施策と一体でなければダメだ。社員は具体的な将来像が描けない。

◎車掌の位置付けは

経営側⇒車掌としての位置づけは今後も変わらない。他会社線などと並走している線区などは車掌省略ができない（現行の規定では）。

◎ワンマン運転の拡大を検討している線区は

経営側⇒新白河～黒磯間でE531系を改造して、中編成（5両編成）の導入を検討している。

◎導入にあたって

経営側⇒具体的には、導入する線区の特状に合わせて各支社において示していく。

◎運賃逋脱防止に対する考え方について

組合⇒中長編成では全ドア開扉となることから、無人駅の有人化や有人時間帯の拡大、自動改札機やSuicaエリアの拡大等、運賃逋脱対策について今まで以上の対策が必要だ。

経営側⇒ワンマン運転やツーマン運転に関係なく、運賃逋脱の対策は行っている。

啓蒙活動や盗難防止の強固な集札箱の設置、目的地まで切符は買っていただくことが原則である。

経営側は個別の項目に対し「現段階で示せる計画や目標値はない」とした上で、今後、変化していく経営環境に合わせた輸送サービスを提供していく為に、中長編成を含むワンマン運転の拡大をしていくとし「実施に関しては支社⇄地本間での協議とする」考えを示しました。

《以下の3点について主張しました》

- ①提案内容の変更や決定事項は早めに労働組合に示すこと。
- ②導入スケジュールなどを本社が示したように、各支社においても今後の導入計画などを示し議論を保障すること。
- ③お客さまの安全はもとより、異常時対応など社員の労苦も検討課題とし、ワンマン運転のみならず技術革新も並行で取り組み、ワンマン運転導入に関しては継続議論とする。

